

研修受講報告書(全国地方議会サミット 2025)

釜石市議会議長 千葉栄 様

令和 7 年 11 月 27 日

釜石市議会議員 村田信之

1. 研修名・日時

「全国地方議会サミット 2025」

・DAY1: 令和 7 年 11 月 8 日

・DAY2: 令和 7 年 11 月 10～11 日

主催: ローカル・マニフェスト推進連盟、早稲田大学マニフェスト研究所

2. 参加目的

SNS・AI 時代における議会の役割変容を理解し、あわせて議会改革度調査の最新動向、子ども・若者参画の理論と実践、ならびに北川正恭教授の最終講義から議会の本質的課題と方向性を学ぶことを目的として参加したものである。釜石市議会の議会改革、政策形成力の向上、そして「開かれた議会」の実現に向けて示唆を得るためのものである。

3. 研修内容(詳細)

(1) DAY1「炎上の時代と SNS・AI、議会改革度調査」

- **SNS をめぐる環境変化と炎上リスクの構造**
近年の情報環境は、誤情報や断片的情報が瞬時に拡散し、炎上が政治不信につながるという構造を持つことが改めて示された。議員個人の発信だけではなく、議会としての広報品質・速度・正確性が問われる時代であり、組織的な広報戦略が不可欠であると指摘された。
- **AI の議会業務への活用可能性**
調査資料の整理、データ分析、条例案比較、住民意見の分類など、多くの業務が AI により効率化されつつある事例が紹介された。AI を活用するか否かで、議会の政策形成の質が大きく変わるとの見解が述べられ、地方議会こそ技能習得と仕組み構築が急務であるとされた。
- **議会改革度調査(2025 年速報)からの示唆**
上位議会の特徴として、①政策サイクルの制度化、②議会基本条例の実質運用、③エビデンスに基づく質疑、④広報媒体の多層化(SNS・動画等)、⑤若者参画の仕組み化、が共通点として挙げられた。単に会議を開くだけではなく、政策形成のプロセスに議会が主体的に関与している点が強調された。

(2) DAY2「子ども・若者の声と議会の政策づくり」

- **若者参画は“イベント”ではなく“制度”であること**
全国の先行事例から、子ども・若者の声を単発の企画ではなく、政策形成サイクルの中に恒常的に位置付けるべきという視座が示された。高校生議会、ユースカウンスル、学校との協働授業など、自治体と議会が連携して若者の当事者性を高める事例が共有された。
- **若者の声を政策に翻訳する議会の役割**
子ども・若者が語る課題は、しばしば「抽象的・感覚的」であるが、それらを行政の政策言語へと翻訳する役割を議会が担うべきという提言がなされた。議員自身が対話ファシリテーション能力や若者理解の素養を持つ必要性が指摘された。
- **安全な対話空間の構築**
若者が意見を表明しやすい環境は、物理的な場の設定だけでなく、大人側の姿勢

が重要であり、「評価しない」「遮らない」「正解を求めない」対話デザインが不可欠であるとされた。

(3) DAY2「北川正恭教授 最終講義」

- **地方議会の原点への回帰**

北川教授は、地方議会に求められる本質は「住民との協働による政策形成」であると重ねて強調した。議会基本条例が目指した理念は、依然として多くの議会です分に実装されていないとの指摘があり、形式から実質への転換が必要とされた。

- **熟議民主主義と透明性**

情報共有の徹底、対話と議論の質の向上、根拠ある意思決定こそが議会の信頼性を高めるという見解が示された。特に、「議員が常に学び続ける組織文化」の欠如が、議会改革の遅れを生むとの警告が印象的であった。

- **次世代議会への期待**

若者や多様な住民が政策形成に関われるよう、議会側が積極的に開かれる姿勢を持つことが地方自治の未来を左右すると述べられ、本サミット全体のメッセージと一貫していた。

4. 釜石市議会への示唆

1. **議会広報の戦略的再構築**

SNS や動画など多様な手段を用いた情報発信を強化し、住民に対する説明責任と透明性を高める必要がある。特に、誤情報が流布しやすい時代であるため、議会としての公式な情報発信体制を整えることが急務である。

2. **AI 活用による政策形成能力の底上げ**

AI を調査・比較・分析業務に取り入れることで、議会としての政策形成能力は大きく向上する。議会事務局との共同運用を含め、早期の導入検討が求められる。

3. **若者参画の制度化**

釜石市の教育、子育て分野と連携し、高校生・大学生・若者の意見が政策に反映される仕組みを構築することが可能である。ワークショップ、ユース会議、学校現場との協働授業など、段階的实施が考えられる。

4. 議会基本条例運用の深化

北川教授の講義を踏まえると、条例の存在だけでなく、その理念を日常の議会活動にどのように具現化するかが問われている。政策形成サイクルの明確化、議会と行政の役割分担の整理、市民参加の方法など、具体の再点検が求められる。

5. 議員の学び続ける姿勢の重要性

多様な分野（AI、教育、福祉、若者政策等）の学びが、政策の質と議会の信頼性に直結する時代である。研修の継続受講と、議会内での学習文化形成が不可欠と考える。

5. まとめ

本サミットは、単なる研修ではなく、地方議会の未来像を多面的に示す場であった。SNS・AIの進展、子ども・若者参画、熟議民主主義の再構築といった課題は、釜石市議会にとっても回避できないテーマである。学び得た知見をもとに、釜石市議会の改革と政策形成の質向上に資する取り組みを今後も進めていく所存である。

以上。